

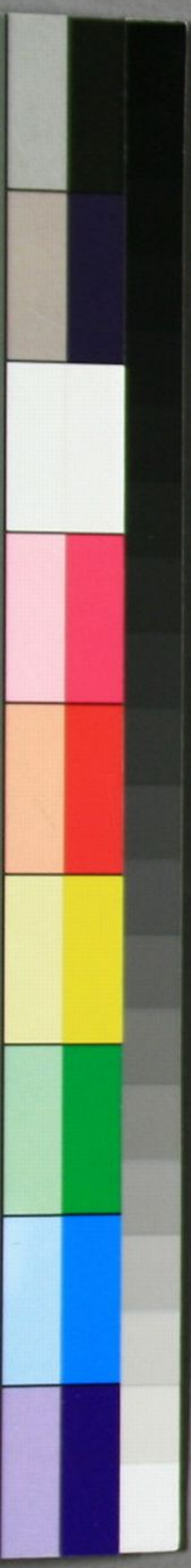
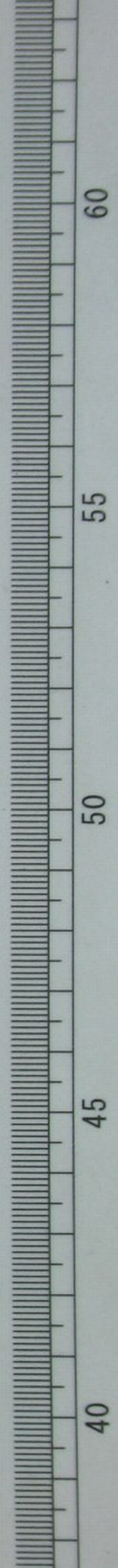
和歌

古経源秘抄

新撰髓腦
真傳抄
和歌所要

三

伊地知文庫
文庫20
324
3



伊地知氏書冊



歌乃ありはる三十一とてしるしとて五句
ありとれ之句とてはた下二句なまそ
ひもとてしるしとてありしとて
よむみとてありしとてはた下二句なまそ
そ再とて心ぬくもとてしるしとて
ろよとてしるしとてありしとてはた下二句
りよとてしるしとてありしとてはた下二句
くつとてしるしとてありしとてはた下二句
くつとてしるしとてありしとてはた下二句

行

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては
いかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

あまのこゝろをいかにかゝるにまよふては

まじもまじさううくもあうとぬん志
ぬれに粗うきなくあうん

かう魚をめくす并三十八文字らうん

ほまかこうこけうひよじひめさうん
あしとちうぬきよあふこらまれ

うらけいさうさうのせうせうせう
そのうこい白さうう何者たうも

ひまのうさ海

ふらさうふささかうたのこまうりそ

わりけくさうさうまらんみまらん

又うにまらう貫えうかうまらぬうん

目本記

ふくさうき

まはなまところか

これらな

あはれ

一

新撰髓脳

公任卿撰

莫傳抄

加賀の原 正月一日大内餠の上は並大根也

物と云ふ乃申さるやきかみ草やうゑの調よと云つ所

初代草 正月三日今うらなふ門松なり

お餅らやまゝは此初代草といふ年人のあきてうゑをん

初見草 松あり

やうと云ふそり松をとりと云ううゑをいふはりり

子代草 松乃慈名たり

非山はぬりといふ家も代草といふと云ふくくも山網物をい

子代草 正月七日美草といふやう調よと云ふ

深くはくをけじらんやいふまら酒乃をぬめんとて

根白草 せりや梨

嫩くはその根を花よ根白草といひ我程おきふりり

梅散見草 梅乃花をらほとより

山里植物はけふかみまらふもらうらうらうせらふ

引添粒 楊芳路ふあり

その根の昔おと山乃かえんまもあうか花はよよいせり

夢見草 きくく

植てたぐいへんやりかえんまもあうはまきくめを乃合ふ

化名草 同

わたあつらふ海金う魚とたぐう魚と世にぬくとん

子向草 とんま山路ふあり

花さけおとひみおふひ向草と世のうらひ葉はをたふ

夜毛草 松たつひけたり

ふかき山乃りり花は向草花やらうゆめさうりおひ

他夏花草 花

くわらうとま回乃山乃日向草まむじ一法花をたぐ

一草草 すみ草

一はくしゆめいゆりらうらむむやな合を今あひを

二草草 とく結

此れ乃神草なりくみはあふ一葉草はむ乃はあふ
一葉草 同

あつちやうのあそゆへ一葉草はむや花はあそゆへ
二葉草 同

二葉草あつちやうのあそゆへ一葉草はむや花はあそゆへ
三葉草 同

あつちやうのあそゆへ一葉草はむや花はあそゆへ
四葉草 同

ひとが四方にまきまきをむけむや花はあそゆへ
同 柳

松よりこは物くは風あそゆへはあそゆへはあそゆへ

川よりま 同

浪よりあそゆへ一葉草はむや花はあそゆへ

花見鳥 うきこ

まらちやうのあそゆへ一葉草はむや花はあそゆへ

大取ま 一

あつちやうのあそゆへ一葉草はむや花はあそゆへ

二葉鳥 鷹

あつちやうのあそゆへ一葉草はむや花はあそゆへ

二葉草 後

五十年もたると根は白く二丈ほどに長くなり根の節は赤く

根の節は赤く 根の節は赤く

その節は赤くお春を苦みたり根の節は赤くお春を苦みたり

酒古きよ 二月三日お春を酒に入ると飲たれり

のびんや代りてお春を酒に入ると飲たれり

西土草

その節は赤くお春を苦みたり根の節は赤くお春を苦みたり

日新草 乙川を苗代と云ふ

その節は赤くお春を苦みたり根の節は赤くお春を苦みたり

枯生草 春を苦みたり根の節は赤くお春を苦みたり

よみ草 根の節は赤くお春を苦みたり根の節は赤くお春を苦みたり

赤生草 春を苦みたり根の節は赤くお春を苦みたり

松がく 根の節は赤くお春を苦みたり根の節は赤くお春を苦みたり

岩根草 根の節は赤くお春を苦みたり

その節は赤くお春を苦みたり根の節は赤くお春を苦みたり

其部

初ん草 卯花

その節は赤くお春を苦みたり根の節は赤くお春を苦みたり

香ん草 同

根の節は赤くお春を苦みたり根の節は赤くお春を苦みたり

垣見ま

外也

かゝるははまや中はほくはみま花はまらり山里感と

形見ま

あま

唐よむ乃ま花はほあ花集くくくまゆ
中よとけしひとあふりまうけうけら崩
沖ありくろ跡よまは連ちるあまひとら
よ向よあふりまはあまむと記念まらり
わらひけりく花乃あはるひあままといけはつと神

あま

あまらば記念まらり事昔大和まらり人から

子乃あまらり一ははけりまらりそのは死あ
親親まはけりあまらり一ことあまらり
アかりあまらり一ことあまらり

ままあまはまのあまらりまらりまらり
良去花 杜若

ままあまはまらりあまらりまらり
石竹 わしこかり 孝皇記ま

あまらりあまらり
あまらり

あまらりあまらり

莫考

三

庭古草 橘

う魚通一草落と昔乃庭うこもたゆたうこ今れ草うと
味待ま 友回

あふあ林すらも林もくこもくこあふあしとあふあ
あ懸ま 其田 橘

せくじもく田は西ふ林ゆ一このせもあつしとあふあ
池見ま くらん

新うあ花やふくじ池みまほのあふあもあふあ
露待ま くらすの葉

あふあのもあふあんあたまたあ林もあふあんあふあ

水塔ま くらす乃名

花ははあみくやるんあたまもあふあうあふああふあ
庭待水 八月あたまのはあふあうしあふあ

あふあもあふんあふああふああふああふああふあ
玉名草 みまくらん

新事あふああふああふああふああふああふああふあ
あふあ ね

あふああふああふああふああふああふああふああふあ
あふあま

あふああふああふああふああふああふああふああふあ

鳴き豆

けやん

みわちやまふんちやくのてしやふんひんせふんていぶんぢやん
えま けり

まふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふん
大借り 堂のてしやふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふん

まふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふん
取付りてしやふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふん

まふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふん
おふんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふん

おふんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふん

名取豆

けん

おふんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふん
且見豆 曲り

みらひのてしやふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふん
取白豆 又牡丹とてしやふん

おふんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふん
以取豆 大角豆

おふんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふん
散り取豆 小角豆

おふんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふん
おふんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふんひんせふん

涼音草

松風

たぐをふと守らんらんふまのこしんくまもみせ乃たを
子明草 扇

もやまもくちかみよ成かき海のこりけしりか
風草 西水

釣ふんをふと乃かたらまのあし種ふりわい
風草 水

風草

水

こころふとふみふみん風うまふらうや移り草
秋部

初見草

萩

くくあああをとりあふとままのあまあま

庭見草

水

恒移りあふらわくちん海見あまのあまのあま

妹遅草

水

あまらまらわ花けあまあまのあまのあま

濃深草

萩

あまらまらわ花けあまあまのあまのあま

あま草

水

わんあまのあまのあまのあまのあまのあま

紅葉草

麻

あまのこま田の山々をなすけりてしむるもつらゆへに
ちよきゆりその田の山々をなすけりてしむるもつらゆへに

露岩草 萩

折神をたれしもの志道し一か所をかりとりて風の花はあり
はなあり

花乃名をふまらありはちりてしむるもつらゆへに

色草 松

よくあまのこま田の山々をなすけりてしむるもつらゆへに

松草 松

梅をたれしもの志道し一か所をかりとりて風の花はあり

志道草 松

吹うせ乃夏やあつらん志道草花をたれしもの志道し

夕草 松

若小らぬ物乃志道草花をたれしもの志道し

鏡見草 松

あまのこま田の山々をなすけりてしむるもつらゆへに

志道草 松

折神をたれしもの志道し一か所をかりとりて風の花はあり

志道草 松

あまのこま田の山々をなすけりてしむるもつらゆへに

形見草 菊

又は菊と云はじし奥別よりあまの妻乃
咄よせせむらうくちり又りよこしんを
しはけしけい云始るあつこ

あまのよりのあまのむくはかみま今より
しはけしけい云始るあつこ

名ありけりあまのむくはかみま今より
しはけしけい云始るあつこ

水徳草 みるく草
七月中日よの白く

くさくさあまのむくはかみま今より
しはけしけい云始るあつこ

白玉粒 竹乃春
けりあまのむくはかみま今より
しはけしけい云始るあつこ

文玉粒 白竹
けりあまのむくはかみま今より
しはけしけい云始るあつこ

次浪草 尾花
けりあまのむくはかみま今より
しはけしけい云始るあつこ

冬部
初見草 菊

けりあまのむくはかみま今より
しはけしけい云始るあつこ

お見え

お見

いと代へ一松の本をのまみまうかむかひ世とらふ
香見え 同

河もふゆめりよの香ふま梅ありりもたむとわ
秋をま 冬まらぬ名あり

花々あは葉とらふに秋あまやみふとけふと約の白あ
初をま 冬梅 少節よらこ

あははけあたふとりのまもをいせとわむとらふん
境見え 水乃上萍と云たり

彼かへけあはるへ一境こまゆはららぬあふとれの名

氷毛境

月の影お水のあははらふとあつてふれあ名
たりあはる川よあ細とらあり

い幸あしあはれあゆ風よむとふもとらふ世いれ
親子ま 懐葉又あふとら

やあふあはせあにやとまふとらふとらたわとらん
六花 雪

そ風あゆとらあふとらふとらあふとらあふとらあ
雑部

かそあ合ま 松

上

月見草 心

山王波味一の松葉やうの向一の種とあるは
寝芝草 心

あふさる種はかりん種芝草の如に草は梅とあり
あま

かたかた子波とありん芝草種は神の海ありと
向はさ ころ海

月かゝる種はかりん種芝草の如に草は梅とあり
十二月異名

昔新月 正月

冬月と世かたかたの種芝草の如に草は梅とあり

年初月 同

梅もくや雪ありあり月名を梅とく成ふとあり

雪消月 梅津月 二月

年あふさる種はかりん種芝草の如に草は梅とあり

大元のとちるは梅津月にはは草とあり

花津月 夏見月 三月

あはれ月とありは草種ありは草種ありは草種あり
梅とありは草種ありは草種ありは草種あり

卯花月 五初月 四月

夏鷹をくふはうらまをのふお世も月とらぬりてぬー
 郭におまけを申さぬ方八月も那の山乃くまの居りけ
 校雲月 五月まを月一有肉ふをこるめと
 宵色にををそと風しりてつしあへる月とらぬりてぬ
 深昔月 松風月 六月
 風吹く池もをなほのこまをくまを月れはよくとあは
 雲あふみあふりて風をすまりの松とせ月乃たをきうゆれ
 七和月 秋初月 七月
 知こはれ々をわあは七和月あよのえりてこのはまはな
 う染をくはらぬらうとむ松をの枯りく月はまあすてーし

木津月 原津月 八月

松はみあふぬを馬のく木津月あをむじぬまこわすは
 海くお花はすくくもをさし海津月とあをものあ

菊田月 紅葉月 九月

赤く葉はうら枯るを花を那も月と月とあてようみ
 吉野山を移るこの山から月田あよりてく志しうの山

神去月 神去月 十月

出雲を松を葉も独あわよの神去月とらぬりてぬー
 神去月ぬりてくはみらてをさしあをやを流りて先めりん

雪待月 神去月 十一月

養ふ物ちり思やせ女との奇にあはれつゝ
 まさり―たふ―おきてをなす―ふかきり
 くらゝくあゝ母をすゝゆかあゝつひくまゝ
 僧俗の袂をむねく―すれとつゝまきて
 う―こをちりあゝせくあゝこをこを
 わらたむいふありすれむねにすまをり
 まゝえしれいゝとら

まの田をたつりあゝおまかろ水くらにまか
 まの田をつゝいゝと入とえしとあゝせ水
 一まゝらゝおれあゝあゝとあゝらゝれ

一とあゝしれ字―も―いゝもふおりむね
 あゝすまゝ初りあゝせよつゝあゝいゝひ
 ちりを決れあゝせよつゝあゝいゝひ
 たりつ七こに―あゝあゝあゝあゝ
 此とあゝいゝしれ字あゝあゝあゝあゝ
 一とあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 ちりあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 らゝいゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 袂―あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ
 ちりあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

本よりたすを腰折るのいふはなほこきなりと云ふ
されどもこの形ありきれは別な故あり腰よ
まふよしとありては歌すもれたとやわら
をおきしりてのいふはたの形もやと云ふ
はり此外別な故ありてはなほこきなりと
ありてはなほこきなり

長歌短歌旋頭混本回文隠題是なり

一 長字ハ三十一字の字あり短字ハ三十一
り句ありぬもは字なりはり旋頭と云ふハ三十一
字れ字のぬ文字とて七文字ありて一旬

ありてはなほこきなりと云ふはり回文ハ三十一字れ字とて
ろろもむも志色かろもむもはり
よふふきふと云ふはり隠題ハむもと云ふ
半と後うたれなり

一 三十一字の字を初ぬ文字によみはるは
とと終の七とよみはるはなほこきと云ふ
はりありてはなほこきなりと云ふはり
ありてはなほこきなりと云ふはり
ありてはなほこきなりと云ふはり
ありてはなほこきなりと云ふはり

永仁四年十一月廿四日當家相傳
秘書淑隆不可授以斗菽之次面謁
之刻當道事志深之由懇望之間書
与良瑜爭勢之勿許外見穴賞云

理達判

